

米国オークリッジ国立研究所の山田-Jones 報告書の検証[§]

A Review of Yamada-Jones Report at the Oak Ridge National Laboratory

小笹晃太郎

要約

山田-Jones 報告書は、1971 年 9 月から 1972 年 11 月にかけて米国オークリッジ国立研究所 (ORNL) で作成された。当該報告書では、原爆直後の放射性降下物を含んでいた可能性のある雨への曝露によって被爆者を 2 群に分けた。雨に曝露された群に分類された被爆者は、その当時 ORNL で利用可能であった、遮蔽歴調査記録の完成途上のデータセットを用いて、個人単位で同定された。雨に曝露されなかった群への分類は、当時利用可能であった別の線量評価用のデータセットを用いて、被爆位置によって行われ、市の南東方向の四分の一の地域で雨がなかったと見なされた。すなわち、南東方向での個人単位のデータは点検されなかった。放射線に関連した急性症状の発生頻度が、線量評価用のデータセットの記録に基づいて、雨曝露群および非曝露群間で比較された。当該報告書では、急性症状の発生頻度は雨曝露群で 20 倍高いと結論した。しかし、その評価は、1) 対象者の恣意的な選択、2) 曝露の評価に関する異なった基準、3) データ源での情報の欠如、および 4) 記録の誤分類、という手法上の欠陥によって意味を持たないと考えられる。

[§] 本報告書は、1972 年 12 月に刊行された米国オークリッジ国立研究所の山田-Jones 報告書を検証するため、放影研解説・総説シリーズとして所内で作成した。英語版は別にある。承認 2012 年 7 月 25 日。